MY GALLERY
私のギャラリー

MAKI SATO

つまみ細工

伝統の花を咲かせて

小さな正方形の布をピンセットでつまみ、折り畳む。そうしてできた小さな片（へん）をでんぷんのりで貼り合わせていく。小さな片が集まり、やがて色鮮やかな一輪の花が咲いた。

ちりめんや薄絹「羽二重（はぶたえ）」などの布をつまんで折って季節の花や自然の美を形作る「つまみ細工」は、江戸時代から約２００年続く伝統工芸。舞妓（まいこ）の艶やかな黒髪を花で飾る「花かんざし」の装飾で知られる。佐藤真紀さんは10年ほど前、たまたま目にした本をきっかけに「つまみ細工」を作る面白さに魅了され、独学で作り方を学んだ。「それまで挑戦したいろいろな手芸の中で一番苦戦したのがつまみ細工。うまく作れなくて諦められず、試行錯誤するうちに好きになっていました」と話して笑う。子どもの頃から時代劇や着物、浴衣、和小物など〝和もの〟が好きなことも影響した。

仕事と家事、子育ての合間に創作に取り組み、後に教室も開くようになった。

初期の頃の作品「紫陽花」

佐藤 真紀 さん

つまみ細工 制作と教室　すずはな
http://r.goope.jp/suzu-hana
https://ameblo.jp/umiko318
facebook　@suzuhana.akita

舞妓のかんざし「紅葉」「藤の花」

「つまみ細工を通して人の輪が広がり、さまざまな出会いに恵まれました」。もっと腕を磨きたいと「つまみ細工」の伝統工芸士が活躍する東京・浅草に出向いて講座で学ぶなど貪欲に創作。その中で転機となったのが湯沢市の「秋田湯沢湯乃華芸妓」との出会い。季節を意識して月替りで花を変える舞妓のかんざし文化について詳しく知る機会になった。今は湯沢のほか、仙台や福島、東京の舞妓、個人にオーダーメードのかんざしを納めている。「お客さまの期待に応えながら腕を磨いていきたい」。春夏秋冬、季節を愛でる日本の文化に花を添える。